

[R8年頭訓示]

R8-1-9

矢野弘典

心の成長

明けましておめでとうございます。好天に恵まれた穏やかな新年でしたが、皆さま、ご家族と共にゆっくりされましたか。長いお休みでしたので、旅行をされた方もあるでしょう。お陰様で私も、十分に英気を養うことができました。

元日の朝には、私は毎年自宅近くの神社にお参りしています。小さな神社ですが、とても清浄な良い雰囲気です。近所の方々が集います。そこで私が心に思ったことは、「心の成長」という言葉でした。大人になったら、子どもの時のように背丈や運動能力が急に伸びたりはしませんが、それでも年齢相応に鍛えれば健康な体を作ることができます。しかし、もっと大事なことがある、それが「心の成長」です。何歳になっても、人はそうありたいと考えました。

サミュエル・ウルマンというアメリカ人が、100年ほど前に「青春とは」という詩を残しました。ドイツに生まれ、アメリカのアラバマ州バーミンガムに住み、1924年に84歳で亡くなった実業家で、詩人です。短い詩ですが、その一節をご紹介します。

青春とは 真の青春とは 若き肉体の中にあるのではなく
若き精神の中にこそある・・・こんこんと湧きでる泉のようにあ
なたの精神は今日も新鮮だろうか いきいきしているだろうか
・・・勇気と冒険心のなかにこそ 青春はある
臆病な二十歳がいる 既にして老人
勇気ある六十歳がいる 青春のまっただなか
歳を重ねただけで 人は老いない
夢を失ったとき はじめて老いる・・・
誰にとっても大切なもの それは 感動する心
次は何が起こるのだろうと眼を輝かせる子供のような好奇心
胸をときめかせ 未知の人生に挑戦する喜び・・・

後は省略しますが、これは新井満という最近の人の訳です。この詩は、終戦直後に日本に初めて紹介され、焼け野原の中から立ち上がって経済復興に携わった、当時のリーダーたちを鼓舞しました。昭和20年代以

来、他の名訳も沢山ありますので、ご興味のある方は、手に取って下さるようお奨めします。

私はこれまで、主として民間企業で、長年にわたり色々なプロジェクトに携わってきました。馬齢を重ねてきたのですが、上手くいった仕事もあるし、思い通りにならないことも数多くありました。そうした中である時、気づいたことがあります。計画が成功するかしないかは、必ずしも保証されてはいない。むしろ、途中で変更することのほうが多い。ただし、そうした経験を通じて、時には血のにじむような日々を送る中で、その経験が未熟な自分を鍛えて昨日よりは多少はましな自分を作ってくれことは確かだと気がついたのです。成功は保証の限りではないが、成功へのバトルを通じて、それを糧にして自分を成長させることはできるということです。物事は、受け取りかた次第だと思います。上手くいかなかった時は、反省するのは良いけれどもがっかり落ち込まないこと。昔からの「七転び八起き」「若い時の苦勞は買ってでもせよ」「転んでもただでは起きない」という言葉は、単なる根性論としてだけでなく、何事も前向きに受け止める人を確実に成長させているのです。

私は若い皆さまのようには参りませんが、遅々としてでも、皆さまと共に、「心の成長」の道を歩んでいこうと思った次第であります。

《十大ニュース》

さて、昨年の十大ニュースを振り返ってみます。随分色々なことがありました。すでに公表済みなので、要点のみに止めます。

- (1) 本社事務所の移転が大きな出来事でした。全部門が同じフロアで仕事できるようになったのは画期的なことですし、これに伴って文書破棄が50%減と大幅に進んだのは、皆さまが心を一つにして取り組んだ結果に他なりません。本社だけでなく、東部・西部でも書類削減が進んだことにも、感謝いたします。並行して、AIの活用などデジタル化に拍車がかかりました。
- (2) センター・三公社の一体化は、各タスクフォースの計画や相互連携が進み、具体的な取り組み成果が産まれました。私たちの組織の将来を決めるプロジェクトでありますので、私たちの本来業務と考えて取り組んで下さい。一体化の概要については、暮れに知事にも進行状況をご説明しました。一体化のバランスシートなど、財務諸表の作成も検討中と話しました

(3) 部門別には、(道路)では、伊豆SL料金所再編と新料金体系を10月から実施し、併せてETCXも導入しました。伊豆中央道・修善寺道路のETC導入については、NEXCOと連携して進め、計画通り工事に着手しました。

(住宅)では、牧之原市の市営住宅を令和7年度から新規受託し、湖西市営住宅についても令和9年度新規受託に向けて協議を開始しました。URからの管理受託も、粛々と終了しました。また、竜巻発生で牧之原市の県営榛原団地に大きな災害が発生した時に、職員・指定修繕業者の迅速な対応により、早期復旧を実現しました。経営理念「お客様と共に歩む」を地で行く、臨機応変の処置と高く評価します。

(土地)では、浜松市から新たに用地取得業務を受託し、国交省からは8期連続で受注しました。また、「伊豆中学校」が昨年4月に開校し、「ひなた公園」の整備が進み、地域の発展に貢献することができました。地籍調査では、川根本町、長泉町、袋井市への支援が続いています。

(4) ここで特筆したいのは、業務功績表彰、ひとり一挑戦表彰に現れているように、素晴らしい業務改善が数多く実現したことです。これは、

現場主義に徹した高い現場力の現れであり、センター・三公社の底力を示すものとして高く評価したいと思います。

十大ニュースは、皆さまの汗の結晶であり、ご尽力に心から感謝申し上げます。その流れは間違いなく良い方向に向かっておりますので、今年も力を合わせ、共に工夫して参りましょう。

《経営の基本》

経営の基本は次の三点で、いつも変わりません。国内外の政治・経済情勢は変転が急で、先の予測は容易ではありませんが、変化するのが世の常です。経営の基本を堅持して、臨機応変に対応していけば良いと私は考えています。

- 1, 「お客様とともに歩む」経営理念の堅持
- 2, 現場主義の徹底と健全経営の推進
- 3, センター・三公社の一体化促進

これらは三つとも深く関連しあっています。

「経営理念」については、改めて申し上げる必要はないでしょう。良いサ

サービスを提供することによって、お客様に喜んで頂くこと以上の喜びはありません。「現場に立って考え行動する」現場主義と、「現場で問題を解決する」現場力の発揮、ここに当センターと三公社の強みがあります。健全経営については数字も大事ですが、一番大切なのは信用です。信用を失ってはダメ、信用が健全経営の大元なのです。センター・三公社の一体化は、組織間の壁をなくし、相互に協力し、助け合い、組織の総合力を高め、県民へのサービスを充実し、県民に喜んで頂くことによって、組織全体としての信用を高めることが目的です。一体化計画は、センター・公社の生き残り戦略で、長寿化、最近はやりの持続可能性の追及です。

他県や市町の公社が解散するのは何故でしょうか。一つは、健全経営を失ったからです。赤字続き、不良資産を抱える、信用が失墜する、これでは経営は成り立ちません。もう一つは、活動が旧来の殻に閉じこもったままで、公社間の協力関係がないためではないでしょうか。旧態依然を本来業務と考えては、時代に後れるばかりです。工夫して何か新しいこと Something New を自分の仕事に加えていきましょう。幸いに一体化PJのお蔭で、相互理解と協力関係が進み始めたことは、将来のために大変良いことです。自分さえよければ良いはダメ。そこが非常に大事な点で、特

に幹部の皆さんには先頭に立って考え、行動して頂きたいと思います。

終わりにあたり、いつも同じで恐縮ですが、ご家族ともども心身の健康に留意し、共に成長する一年といたしましょう。

“明るく、元気で、仲よく、厳しく！”

以上